

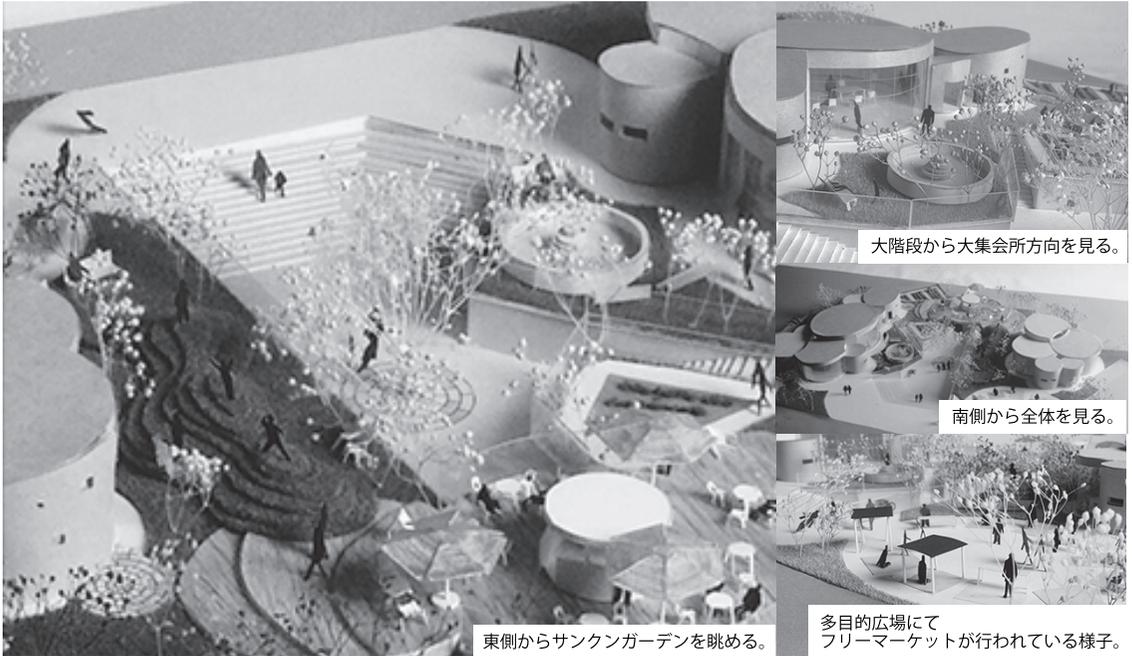
■学生活動報告

藤木研究室の活動報告

団地の未来—集まって住む未来—コンペ応募案 **大きな家、小さな森**

—みんなが集まる、もうひとつの家としての集会所—

3回生 大工原有紀, 関谷瑛子, 日野声佳
指導教員 藤木庸介



大階段から大集会所方向を見る。

南側から全体を見る。

東側からサンクンガーデンを眺める。

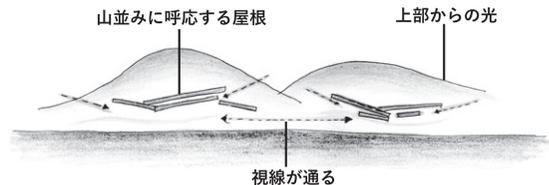
多目的広場にてフリーマーケットが行われている様子。

■設計コンセプト

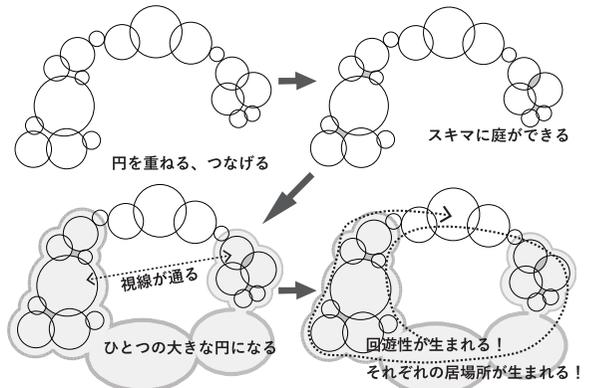
ご老人が4割を占めるというこの団地で、大階段でリハビリをするご老人が、カフェでお茶する主婦と、こども広場で遊ぶこどもと、ふと目が合ったり、何となくただそこに行くとお互いの存在があり、それぞれの居場所があり、あたたかく、落ち着ける、みんなが集まるもうひとつの家のような空間。

洋光台団地の周辺に森が点在していることに着目し、この集会所を小さな森に見立てた。山並みに呼応するように勾配屋根を利用し、木をたくさん植えた。

円を用いる事で、角の無いやわらかな空間をイメージした。さまざまな大きさの円が集まり重なり合うことで、その隙間が庭になる。カフェに行くとき、大集会所に行くとき、日々の異なった導線ですさまざまな見え方をする。



■形の説明



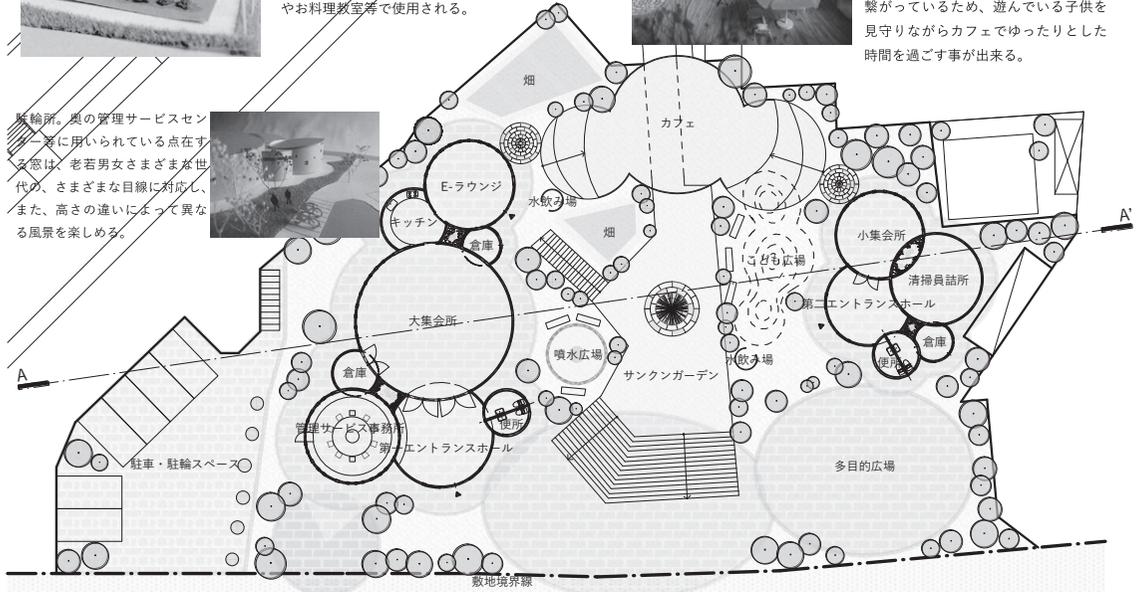


E-ラウンジの近くには畑がある。この畑では団地に住むご老人の方が中心となって数種類の野菜を育てている。収穫の時期には小さなお子さんも参加できる収穫イベントが開催される。採れた野菜はカフェやお料理教室等で使用される。

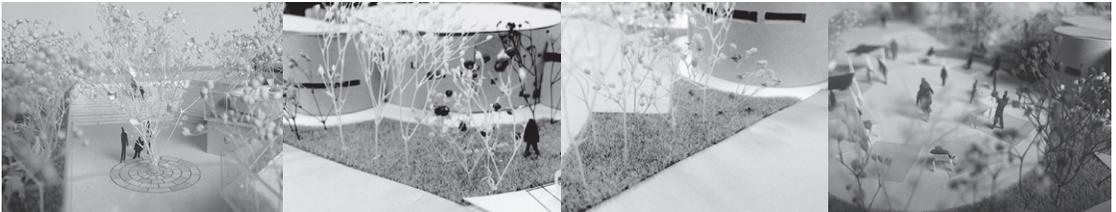


カフェからサンクンガーデンを見渡す事ができる。サンクンガーデンの中心にはハナミズキがあり、周辺は桜で囲まれているため、春にはとても良い眺望が得られます。また、こども広場と繋がっているため、遊んでいる子供を見守りながらカフェでゆったりとした時間を過ごす事が出来る。

駐輪所。奥の管理サービスセンターに用いられている点在する窓は、老若男女さまざまな世代の、さまざまな目線に対応し、また、高さの違いによって異なる風景を楽しめる。



平面図 S=1:500



春にはサンクンガーデンの周辺に桜が咲き誇る。中心に咲くハナミズキの花言葉は『永続性』

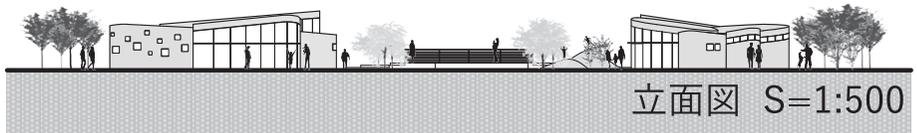
春には白い花をつけていたジュンペリーは 6月になると赤い実をつける。

11月にはキンモクセイが可愛らしいオレンジ色の花をつけ、ほのかな香り運ぶ。

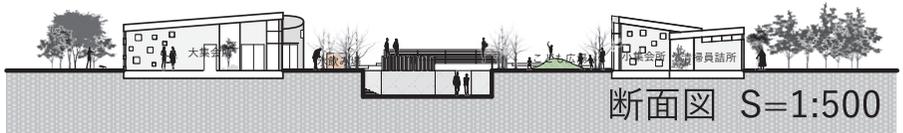
キンモクセイの季節が終わると、モミジが赤く色づき始め、その他の木々も紅葉し始める。



サンクンガーデンを見る。



立面図 S=1:500



断面図 S=1:500